

科目名	期別	単位数	開講年次	担当教員名
(新) (旧) 法曹倫理	後期	2単位	(標) 1年 (既) 1年	内田 省司 神原 和宏

授業目的	この講義では、法曹三者（裁判官・検察官・弁護士）が、その職務を追及する上で遵守すべき倫理規範について学んでいく。そもそも法曹は、国民の基本的な人権と法の支配の実現の最後の拠り所である司法の担い手として、豊かな教養と専門的な法知識だけでなく、高い倫理性を備えて、国民の尊敬と信頼に値する専門職業人となることが要請されている。法曹養成機関としての法科大学院において、法曹倫理が必修科目として重要な位置づけがなされるのはこうした理由からである。講義では、法曹制度全体の現状や理念をまず学んだ上で、「弁護士職務基本規定」に基づいて、弁護士倫理を中心に、具体的事例問題を検討しながら学んでいく。裁判官倫理と検察官倫理については、裁判官経験者や検察官経験者をゲストスピーカーに呼んで講義してもらい、それぞれの立場で守るべき倫理について考察していく。		
達成目標	「弁護士職務基本規定」を中心とした法曹の守るべき様々な規範に対する認識を深めるだけでなく、法曹の役割・理念について、その根本から理解し、さまざまな倫理上の問題に直面して、自分で考え、それを論理的に表現していく能力の育成に努める。		
授業計画と予習事項	回数	各回タイトル(テキスト範囲)	授業内容 (2~3行)、予習基本事項 (1~2行、予習文献1~2) 全体各回3~5行程度
	1	ガイダンス 講義1 : 司法改革の内容と現状 (担当: 内田・神原)	講義の方法・内容に関する全般的なガイダンスを行ったうえで、主として弁護士教員によって、司法改革審議会意見書で示された司法改革の内容と法曹倫理教育の意義について講義を行う。 (参考) 教科書 終章
	2	講義2 : プロフェッション倫理としての法曹倫理 (担当: 内田・神原)	研究者教員による講義。 法曹倫理を広くプロフェッション倫理という視点から検討する。
	3	講義3 : 法曹の歴史と現状、弁護士の理念 (担当: 内田・神原)	弁護士教員による講義。 日本の法曹の歴史と現状を説明し、特に弁護士の理念について、その歴史を踏まえながら、説明する。 (参考) 教科書 16章
	4	I 利益相反(1) (担当: 内田・神原)	今回から、担当者による具体的事例問題の報告をしてもらう。 最初に、弁護士倫理の中で特に重要な「利益相反行為」の問題を取り扱う。 (参考) 教科書 第1章 第1節・第2節・第3節
	5	I 利益相反(2) — 複数当事者間の利害調整 (担当: 内田・神原)	「利益相反行為」の第2回目として、「複数当事者間の利害調整」を取り上げ、中立型調整という弁護士業務の領域の拡大に伴う困難な問題を検討する。 (参考) 教科書 第1章 第4節・第5節
	6	講義4 : 裁判官倫理 (担当: 川畑・内田・神原)	裁判官倫理について、裁判官出身の川畑耕平教授をゲストスピーカーにお招きして、講義をしていただき、その後質疑応答を行う。 (参考) 教科書 第17章
	7	II 守秘義務 (担当: 内田・神原)	弁護士倫理において重要な「守秘義務」の問題を取り上げる。 (参考) 教科書 第2章
	8	III その他の義務 誠実義務と真実義務 (担当: 内田・神原)	弁護士倫理の基本的義務とも言うべき「真実義務」と「信義誠実義務」を取り扱う。 (参考) 教科書 第3章

9	IV 依頼者と弁護士の関係 (1) — 相談と受任 (担当：内田・神原)	「依頼者との関係における倫理」の第1回として「事件の依頼を受ける過程における倫理」を取り上げ、特に「事件の受任」の問題について検討する。 (参考) 教科書 第4章
10	講義5 : 検察官倫理 (担当：弁護士・内田・神原)	検察官倫理について、検察官出身弁護士をゲストスピーカーにお招きして、講義をしていただき、その後質疑応答を行う。 (参考) 教科書 第12章
11	IV 依頼者と弁護士の関係 (2) — 調査と事件処理 (担当：内田・神原)	「依頼者との関係における倫理」の第2回として「事件処理の過程における倫理」を取り上げ、事件処理の決定権と弁護士の裁量について検討する。 (参考) 教科書 第5章
12	VI 弁護士と相手方・第三者との関係 VII 弁護士と他の弁護士との関係 (担当：内田・神原)	最後に残った倫理問題として「非弁行為」と「相手方・他の弁護士との関係における倫理」の二つの問題を取り上げる。 (参考) 教科書 第7章・第8章
13	VIII 刑事弁護における倫理 — 依頼者と弁護士の関係 (担当：内田・神原)	刑事弁護における倫理的な問題として、特に「真実義務」について取り上げる。 (参考) 教科書 第9章
14	IX 共同事務所・弁護士法人・組織内弁護士の倫理 (担当：内田・神原)	弁護士業務の拡大に伴い発生する倫理的な問題として、「共同事務所の弁護士間の諸問題」や「組織内弁護士の諸問題」などを取り上げる。 (参考) 教科書 第14章 第1節・第2節
15	V 非弁行為 (担当：内田・神原)	最後に残った倫理問題として「非弁行為」の問題を取り上げる。 (参考) 教科書 第14章 第3節
授業方法・予習上の留意点(各回指示以外) 自習事項	この授業は、教員やゲストスピーカーによる講義と学生の担当者による具体的事例問題の報告の併用で行われる。講義の場合には、あらかじめ配布された資料や指示された資料の予習が必要である。担当者の報告の場合には、担当者以外の者も教科書の指定箇所を読んで、設問の解答を考えてることが求められる。	
評価方法と評価基準 (期末試験、レポート、ディベート等)	報告内容が20%、その他授業への取り組み(質問・受講態度・出席状況)が10%、定期試験の成績が70%で総合的に判断する。	
テキスト 独自教材	森際康友編 『法曹の倫理』(名古屋大学出版会)	
参考書 (3~5冊)	塚原英治・宮川光治・宮澤節生編『法曹の倫理と責任 第2版』(現代人文社) 小島武司・田中成明・伊藤眞・加藤新太郎編『法曹倫理 第2版』(有斐閣) 加藤新太郎『コモン・ベーシック 弁護士倫理』(有斐閣)	